

かえるのうたが きこえるよ

①

けるる 「うわあ、あったかくい！」

トノサマガエルの

けるる と けるろ が

つちを はねのけて でてきた。

けるる 「春^{はる}だ！春だよ 春がきたんだ！

おきろよ けるろ」

けるる 「ほんとうだ あったかい

おはよう けるる」

2ひきは かおを みあわせて

よろこんだ。

あんまりうれしくって

ひっくりかえっちゃった。

そしたらね・・・

ぬく



けるる 「あれ？ なんだかへん！」

2ひきは ぐるりと

まわりを みまわした

けるる 「え？ ここ どこ？」

目の前には たいらな土地とちが
ひろがっていた。

けるる 「ぼくたち たんぼのわきに

あなを ほったんだよねえ」

けるる 「たんぼのちかくのあなで

ねたんだよねえ」

たいらな土地とちには

かんばんが たっていた。

アパート建設予定地

けるるとけるろが

冬ふゆごもりしているあいだに

たんぼは うめられたんだ。

けるる 「え」

ぼくたちのたんぼが

なくなっちゃったんだ！」

ぬ く



けるる 「たんぼがなくっちゃあ
いきていけない」

けるる 「なかまがいなくっちゃあ
くらしていけない」

けるる 「どうしよう」

けるる 「どうしよう」

2ひきは かんがえた
いっしょうけんめいかんがえた
けるるがいった

けるる 「そうだ たんぼを さがそう」

けるるもいった

けるる 「うん おひっこしだ！

でも・・・

どっちへいったらいい？」

けるる 「とりあえず ここからでてみよう」

けるるがおおきく ぴよーんと **はねた**



シャー……！ シャー……！

けるるのすぐよこを くるま車のタイヤが
はしった

けるる「ぎゃあー」

そこは どうろだった。

けるる「けるる はやくわたれ！」

2ひきは いのちからがら どうろを
わたった

わづらまぬく

①

ほっとしたのもつかのま

バサバサバサ

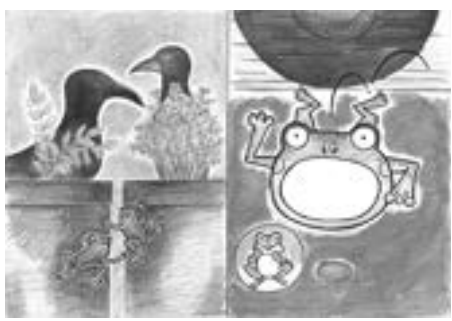
けるる「からすだ かくれろ！」

カラスは するどいくちばしを ならして
おいかけてきた

2ひきは ちかくのうえきばちのすきまに
もぐりこんだ

カラスがいなくなるのを じーっと
まった

ゆっくり②線までぬく



けるる 「はく・・・あぶなかつたねえ・・・」

けるる 「はく・・・」

たんぼは どこだ

たんぼは どこにある？

2ひきは たんぼをさがすが みつからない

へとへの 2ひきに おひさまが ぎらぎらてりつけた

けるる 「からだがかわいてきたよう くるしいよう」

けるる 「みずがほしいよう もうだめだあゝ」

あきらめかけたそのときだった

わじまじぬく

Ⓑ

けけ けけけ <<<<<<

けるる 「え？ かえるのこえ した？」

けるるが たちあがって あたりをきよろきよろみた

けるる 「うん！ した！ したよ」

2ひきは さいごのちからを ふりしぼって

おもいつきり はねた

すぼせくぬく



⑥

けるる 「あつ！あつた たんぼだ」

けるる 「あつた

みずいっぱいだあ」



けるるが おもいつきり とびこんだ

けるるも つづいて とびこんだ

けるる 「つめたい きもちいいよう」

けるる 「たんぼ たんぼ みつかった」

2ひきは大はしやぎになって
みずにもぐった

しばらくすると

ちかくでこえがした

ぬく

それは あまがえるだった

あまがえる 「ねえ、きみたち

どうしてここへきたの？」

けるる 「ぼくたちのたんぼが

なくなっちゃったんだ」

あまがえる 「そうか きみたちもか」

けるる 「え？きみも？」

あまがえる 「うん」

2ひきは まえのたんぼの

おじいちゃんのことを おもいだした

冬ふゆごもりするまえだ

おじいちゃんは

”これで しまいだ ごめんな” って

さびしそうにいったことを。

けるる 「そうか

おこめづくりはもう

できないってことだったんだ」

けるとけるるは ふあんになった

けるる 「ねえ ここは

だいじょうぶかなあ？」

ぬく



こんどは ひきがえるが こたえた

ひきがえる 「うーん わかんない

でもね ここの たんぼの

おじさんは

ときどき みにきては

”ことしもたくさん

かえるがあつまったな

うれしいよ

ずっとずっと よろしくたのむよ。

って いていた」

ける 「ふうん そうなんだ あっ でもどうして

かえるがいると うれしいの?」

ひきがえる

「それは ぼくたちが いねにつくむしを

たべるから。 おいしいおこめをつくる

ために ひつようなことなんだ」

ける 「それって おじさんのおてつだいを

しているってことだよね」

ける 「それなら ぼくたちにだって できる」

2 ひきは かおをみあわせ わらった。



つぎのひ

けるる 「ねえ けろろ

おじさんのおてつだいその1

たくさん むしをたべること

ずっとずっと

たんぼをのこしてもらおう」

けるる 「うん ぼくたちのたんぼだ ぼくたちのでね」

2ひきは むしをたくさんたべて

からだもおおきくなった

わじうまでぬく

©

けるる 「ねえ けろろ おじさんのおてつだいその2

かぞくをふやして おおぜいで

むしをたべること」

けるる 「まずは およめさんを見つけらんだよね」

けるる 「それには よいこえがたいせつ

よいこえは のどのおくを ふくらませて

ふるわせるんだ けるるる」

けるる 「こうだね けろけろけろろ」

まわりのかえるたちもなきだした



夏なつのよる

ひがしずみ あたりがくらくになると
たんぼから きこえてくるよ
かえるのうた

※けけけけ けろけろ げっこげこ

かかかか けるるるる くわっくわっくわっ

※くりかえし

かえるのうたは こいのうた いのちのうた
けるとけろろも おおきいこえで うたってる

”あのね おじさん

みんなでおいしいおこめづくり てつだうよ
だから ぼくたちのたんぼをのこしてね
おいしいおこめ みんなにたべてもらおうよ
“

おしまい

